

坂城町特命大使

小松美羽さん 長野県立美術館でライブペインティング

7月25日(日)、長野市の長野県立美術館で小松美羽さんのライブペインティングが開催されました。

小松さんは、町出身の現代アーティストとして、世界をまたにかけて活躍されています。

ライブペイントは静かな祈りからスタートしました。それから、荒々しくありながらも穏やかに祈り続けるかのように白と黒のキャンバスに色をのせていきました。

ライブペイント終了後、小松さんから作品についてのお話があり、幼い頃に坂城で育まれた感受性と大人になって世界などを見ての経験が、今の小松さんの作品に反映しているということでした。



▲ライブペイント中の様子



南条保育園 関保育士

町の子育て支援体制をシンポジウムで発表

7月30日(金)から31日(土)まで「第47回日本コミュニケーション障害学会学術講演会」が新潟県の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催されました。

「今日をつないで 明日へ」をテーマに全国各地から、福祉施設従事者、教育・医療関係者などが集まり、困難を抱える方々に寄り添いながら支援をどうつないでいくかについて、実践発表等が行われ、保育士の関連平さん(南条保育園)がシンポジストとして参加しました。

関さんは、出生から就園、就学そして就労まで、0歳から18歳までの切れ目のない町の支援体制を紹介し、保育士として直接関わっている活動について発表しました。特に、子どもの成長を見守る中で、思いを理解することの難しさを感じながらも、子どもの「がんばろうとする力」「あきらめない心」が育つように取り組み、できた時にはことばにして「認めてあげることを日々の保育で実践していることを発表しました。



▲壇上で発表する関保育士

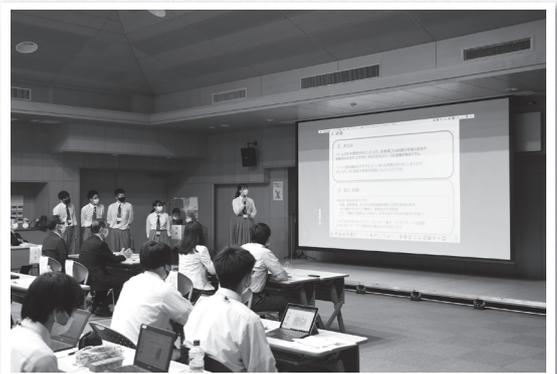
坂城町の魅力を引き出すまちづくりを提案

「坂城高校生によるまちづくりシンポジウム 2021」開催

8月2日(月)、中心市街地コミュニティセンターで、「坂城高校生によるまちづくりシンポジウム2021」が開催されました。これは、地方創生や地方の人材育成を目的に、坂城高校と筑波大学との「高大連携事業」のひとつとして行われたものです。

7月31日(土)、8月1日(日)の2日間で、大学生がファシリテーターとなり、高校生たちが、町の歴史や文化などの特徴から自分のまちの魅力を発掘し、坂城町の魅力を引き出すまちづくりの提案を各グループで考えました。

坂城高校生3グループと筑波大学大学院生1グループの計4グループが、防災、福祉、観光交通の各分野について、提案を発表しました。各グループとも興味深い提案でした。



▲発表の様子